

④ 文化財指導者講習会

ア 目 的

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、文化財保護の指導的立場にある関係者の参集を求めて、文化財に関する専門的講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展を図った。

イ 主 催

県教育委員会・田島町教育委員会

ウ 期 日

昭和52年5月24日(火)～25日(水)

エ 会 場

田島町中央公民館

オ 参 加 者

文化財保護行政を担当する市町村職員、市町村の文化財保護審議委員、又はこれに準ずる者、小・中・高校の教員、文化財保護団体の関係者。約 240名。

カ 講 習 内 容

(ア) 講 義

⑦ 福島県の祭礼・法会・年中行事について

東北学院大学教授 岩崎敏夫

⑧ 遺跡保護の問題点

—— 特に福島県における埋蔵文化財を

中心として ——

奈良国立文化財研究所長 坪井清足

⑨ 民具の取り扱いについて

文化庁主任文化財調査官 木下忠

(イ) 映 画

⑦ 縄文時代

⑧ 奥会津の木地師

(ウ) 研 究 協 議 (部会・全体会)

⑦ ア 部 会

史跡・埋蔵文化財の保護について

司 会 塩川町公民館長 大川原 栄 喜

事例発表 石川町教委社教主事

近内長重

⑧ イ 部 会

民俗文化財の保護について

司 会 いわき市文化財調査委員会

和田文夫

事例発表 東和町教委社教主事

関和彦

⑨ 全 体 会

司 会 田島町文化財保護審議会

田島町立松沢中学校長

五十嵐 徳 三

(エ) 現 地 研 修

三匹獅子舞公開 (田島町指定)

竜福寺蔵種字曼荼羅他 (田島町指定)

糸沢問屋

奥会津地方歴史民俗資料館 (県指定・旧南会津郡役所)

⑤ 文化財愛護モデル地域活動

文化庁では、全国的に文化財愛護モデル地区を指定し文化財愛護地域活動の普及を図っている。

本県では、会津坂下町が昭和51、52の両年度指定を受け、地域に即応した活動を展開した。

ア 文化財学習活動

少年文化財教室、文化財講座、文化財めぐり

イ 学校における文化財学習等

町内の中学校、高等学校においてクラブ活動の中に文化財の調査、研究活動を取り入れた。

ウ 各種団体による実践活動

町内にある文化財保存団体等が中心となり、講演会展示会、発表会等を実施した。

エ 広報活動

町広報紙を活用し、文化財の普及並びに愛護思想の高揚を図った。

オ その他

文化財防火訓練、防火施設等の点検、管理状況査察所有者等への指導を実施した。

⑥ 文化財防火デー

毎年1月26日を文化財防火デーと定めているが、県内各消防署等の協力を得て、次の市町村で防火訓練、防火診断、査察を行うとともに、県教育委員会においても、広報媒体の活用により文化財の防火に対するけいもうを行った。

福島市、二本松市、桑折町、国見町、梁川町、保原町、霊山町、月館町、飯野町、大玉村、本宮町、白沢村、岩代町、東和町、郡山市、須賀川市、三春町、小野町、滝根町、大越町、船引町、長沼町、鏡石町、岩瀬村、天栄村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、白河市、喜多方市、塩川町、山都町、会津坂下町、河東村、会津高田町新鶴村、金山町、田島町、下郷町、松枝岐村、伊南村、南郷村、只見町、相馬市、新地町、鹿島町、小高町、いわき市。計50市町村。

⑦ 民俗音楽出版

ア 目 的

本県内に遺存している民俗芸能にともなう囃子と歌について、録音採譜したものを出版し、社会教育、学校における音楽教育への資料として活用を図る。

イ 対 象

神楽、田植踊、獅子舞、念仏踊などの民俗芸能にともなう囃子と歌のうち、昭和49～51年度における民俗音楽調査で対象とした100曲。

ウ 出版方法等

採譜した曲の音譜、歌詞等について、福島県合唱連盟に委託したものである。

⑧ 文化財展示公開施設

施 設 名	組 織	住 所
福島県美術博物館	県 立	福島市春日町
福島県歴史資料館	〃	〃
本宮町立歴史民俗資料館	町 立	安達郡本宮町
開 成 館	市 立	郡山市開成
須賀川市立博物館	〃	須賀川市池上町
船引町歴史民俗資料館	町 立	田村郡船引町